

平成31年度  
国語

(解答用紙は別紙としてこの冊子にはさんであります。)

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

上野村の最深部には浜平<sup>a</sup>というシュウラクがあった。奥秩父の山並みの中に埋まるように数戸の家が建っている。そこに一軒の鉱泉宿があった。私は一人の釣り人としてこの忘れられない村を再訪した。それ以来、私は何度この村を、「a」浜平を訪れたことだろう。

いつの頃だったか、私は村人の使う言葉の中にもしろい使い分けのあることに気づくようになった。それが「稼ぎ」と「仕事」の使い分けだった。「さて、仕事をするか。」村人はそう言って山の畑に出ていく。ところが違う時がある。「父ちゃんは今日は稼ぎに行っているよ。」というような調子で話す時があるのである。「仕事に行く。」「稼ぎに行く。」、この二つの言葉に明確なキョウカイ線<sup>b</sup>があることを知った時、私は再び不思議な気持ちをいだいた。

畑仕事、山の木を育てる仕事、山の道を直し橋を直す仕事、食事を作り、服を作る家庭での仕事、村の寄り合いに出る仕事、それらは生産的労働から家庭内労働、村を維持していく労働までを貫く<sup>c</sup>仕事であり、必ず行われなければ山村での人間の生存が危うくなっていくような仕事である。これらの仕事を村人は「仕事」と表現する。

ところが「稼ぎ」は違う。それは現金を得るための手段であり、他にもっとよい現金収入の方法があれば、直ちにやめてしまっても構わない性格のものである。その代表は日当を得るための土木工事に出ることであろうが、村人の意識の中では会社勤めもこの中に含まれる。他人の下で雇<sup>d</sup>われることは村人にとっては、たとえどんなものであれ「稼ぎ」である。

本来ならしくなくてもよいはずなのに、生活のためにしなければならぬ仕事を「稼ぎ」と表現し、だから当然のように村人にとっては「稼ぎ」は「仕事」よりも地位が低い。ところがこの「稼ぎ」と「仕事」はどちらも同じような労働になってしまっているような場合もあるのである。例えば森林の枝打ちなどは、自分の山の木を育てるためにそれが行われる時には「仕事」なのに、日当で雇われて営林署の下請け仕事をするような時には「稼ぎ」なのである。山菜やきのこを楽しみながら採りに行く時は「仕事」であり、現金収入のためにイワタケやシノブを採りに行く時は「稼ぎ」である。無償で山の道を直す時は「仕事」なのに、同じことを日当をもらってする時には「稼ぎ」である。

上野村の浜平にしばしば逗留<sup>e</sup>し、村人と話をしていくうちに、私は村人の中に「仕事」の世界と「稼ぎ」の世界があることを知り、そしてそのことが私を感服<sup>f</sup>させた。村人は本当は「仕事」をして暮らすことを、「仕事」が結果として現金収入にもなることを希望し、しかしそれが果たせない時、「稼ぎ」の世界に参加する。

そのことが分かった時、私には、この村の景色がなぜ美しいのかが理解されてきた。初めてこの村を訪れた時、道は全て未舗装<sup>g</sup>だった。土のむきだしになった細い道が続き、ところどころに穴が開いていて、「b」その穴には全てわらが詰められ埋められていた。そうやって村人は「仕事」として道を守ってきたのである。

森の中に分け入る小道にも、川に架かる木橋にも村人の「仕事」の世界が映し出されていた。セマ<sup>h</sup>い畑に何十種類にも及ぶ作物が育ち、背負子<sup>i</sup>にシイタケを入れた老人が山から降りてくる。そして屋根を栗板<sup>j</sup>でふき石を載せた家が並び、それらの姿が全てを「仕事」の世界で解決してきた村人たちの暮らしぶりを表していた。とするとあの日私は、この村人の「仕事」の世界が作り出した景色の美しさに見とれていたことになる。

( 出典 『情景のなかの労働』 内山 節 著 )

\*1 鉱泉宿 —— 鉱泉とは、温泉成分を含むが水温が低い湧泉で、それを沸かして入る宿屋のこと。

2 枝打ち —— 節のない良質の材木を作るため、一部の枝を取り除くこと。

3 営林署 —— 国・公有林の管理・経営にあたる機関。森林管理署に改称された。

4 イワタケ —— 地衣類イワタケ科の一種。食用となる。

5 シノブ —— シノブ科の夏緑性シダ。観賞用となる。

6 背負子 —— 大きな荷物を背負うために、背に当てて用いる長方形の、木などで作られた枠。

問一 ― 線部①～⑥のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直し、それぞれ解答欄に答えなさい。

問二 ― 線部の「ように」と同じ用法の「ような」「ように」を選び、解答欄に記号で答えなさい。

---

ア 練習のおかげでやっと泳げるようになった。  
イ この時計は故障してないような気がする。  
ウ 昨日と違い、今日は真夏のような暑さだ。  
エ わかりやすくなるように並べかえましょう。

---

問三 (「a」・「b」)に入る適切な語を、次の中から選びそれぞれ解答欄に記号で答えなさい。

【アなぜなら イそして ウしかし エしかも】

問四 ― 線部①「稼ぎ」は「仕事」よりも地位が低い」とありますが、なぜ「稼ぎ」は「仕事」よりも地位が低いのですか。

その理由として最も適当なものを次の中から選び、解答欄に記号で答えなさい。

---

ア「仕事」は他人の下で雇われて行うものであり、「稼ぎ」は自分の都合で行うことができるものだから。  
イ「仕事」は人間の生存や村の維持に必要なものであり、「稼ぎ」は現金収入を目的として行うものだから。  
ウ「仕事」は先祖代々受け継がれて行うものであり、「稼ぎ」は本来やめてしまっても構わないものだから。  
エ「仕事」は自然を育てるために行うものであり、「稼ぎ」は現金収入のために日当で雇われて行うものだから。

---

問五 ― 線部②「それ」とは何を示しますか。本文中より漢字二字で抜き出し、解答欄に答えなさい。

---

ア 心が乱れるほど驚くこと。  
イ 心につけて忘れないこと。  
ウ 心から嘆き悲しむこと。  
エ 心を動かして敬うこと。

---

問六 ― 線部③「感服」の意味として最も適当なものを次の中から選び、解答欄に記号で答えなさい。

問七 ― 線部④「私には、この村の景色がなぜ美しいのかが理解されてきた」とありますが、私がこの村の景色を美しいと考えている理由は何ですか。  
二十字程度で解答欄に答えなさい。

〔下書き用〕

## 【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

僕らのタイムマシンが完成したのは、クリスマス・イヴの前の日のことだった。

できあがったタイムマシンに、僕らは大きなリボンをかけて、記念サツエイをした。<sup>a</sup>三人でいっせいに、

「はっしーん！」

と叫んでいる瞬間の写真だ。

タイムマシン本体を病院まで運んでいくことはできないけれど、せめて写真だけでも、ヤンチャへのクリスマス・プレゼントにするつもりだった。

二日ぶりに会うヤンチャに早く写真を見せてやりたくて、僕らは秘密基地から病院までヨーイドンをした。ヤンチャがいたらダントツで一番だったろうけれど、僕とノリオはいい勝負だった。見えないくらい後ろから、ハム太がぜいぜいのどを鳴らして追いかけてきた。

息を切らしたままヤンチャの病室にかけ込むと、窓際のヤンチャのベッドはきちんと整頓<sup>b</sup>されて、誰も寝ていなかった。

一瞬、部屋を間違えたのかと思った。でも、右側のおじいさんたちも、ヤンチャの隣のおっちゃんも、確かに同じ顔ぶれだ。

ものすごくいやな感じが僕をオソ<sup>c</sup>った。首筋の毛が、ぜんぶ逆立<sup>d</sup>つ。

「……ヤンチャは？」

と僕は言った。自分の声が、どこか遠くから聞こえるような気がした。

やっと追いついてきたハム太が、空のベッドを見て、

「あれ、ヤンチャのやつ、退院したのか？」

と言った。

おっちゃんは黙って僕らを見た。それから、ゆっくりと首を横に振った。

「そ……んな……」

(信じない、そんなこと絶対に信じないぞ)

思うのに、勝手に口が動く。

「……いっせ。」

「今朝だよ」と、おっちゃんは言った。「明け方、ひどい発作<sup>e</sup>を起こしてね。あのやろ、ずいぶん頑張ったけど——だめだった」

僕は、じりじり後ずさりした。からっぽのヤンチャのベッドに背中を向けたが最後、何もかもが本当のことになってしまう気がした。

と、ノリオが突然ウツと変な声をもらし、そのまま廊下を走り出した。

「待てよ！」

ハム太が後を追う。ばたばたと遠ざかっていく足音を聞きながら、おっちゃんは僕の顔をじっと見て口元をゆがめ、とても静かに言った。

「間に合わなかったな。おめえらのタイムマシン」

そのとたん、我慢が限界にきた。僕は二人を追いかけて病院の外へ飛び出した。

たったいま笑いながら走ってきたばかりの土手の道を、僕らはうつつむいて歩いた。涙でまわりのものがみんなぼやけ、道端の小さな石ころに何度も蹴つまずいた。

悔しかった。こんな仕打ちがあつてたまるかと思った。どうしても納得できなかった。ヤンチャのやつにしたって、あんまり水くさすぎる。おととい会った時は普通に話していたのに、なんでこんなに急にいつてしまうんだ。なんで僕らに一言のあいさつもなく消えたりできるんだ。ひどいじゃないか。あんまりじゃないか。

これからどうすればいいのか、自分では何も考えられなかった。先に立って足早でどんどん歩いていくノリオの姿を、よろよろと追いかける。

たどりついた先は、やっぱり X だった。裏口から入るなり、ノリオはセーターの袖口で顔をぬぐって、結んであったリボンを荒々しくほどいた。

「おい、何する気だよ」

とハム太。

フタを引き開けながら、ノリオは振り向きもせずと言った。

「きまつてるだろ。これは何だよ。オレたち、何を作ったんだよ」

「え……えええっ？」ハム太の声が裏返った。「け、けど、こんなもんが今さら何の役に立つのさ」

ノリオが黙って中に入る。

「おい、ノリオってば！」 ハム太は必死になって言った。「たとえこれが本物だったとしたってさ、ヤンチャはもう……もう、いないんだぜ？ 未来から誰を連れてきたって手遅れじゃないか」

②「そんなことない！」 ノリオは怒鳴った。「今日より前の世界に戻ってくればいいんだから」

「何言ってるんだよ、さっぱりわかんないよ」 ハム太が泣き声を出す。「ちゃんと説明してくれよ」

「だから！ ヤンチャが死んじまうより前の世界に戻ってくればいいんだ。そうすれば、ヤンチャにはもう一度チャンスがある。もしかしたら今度は死なないですむかもしれないじゃないか」

「そうか！」

思わず叫んだ僕の声に、ハム太がびくつとなる。

「そっだよ、何もわざわざ『今日』めがけて戻ってこなくてもいいんだ！ 『昨日』にだって、その前にだって、ヤンチャが元気な頃や、僕らが赤ん坊の頃にだって、好きな日や好きな時間をめがけて戻ってこることができるんだ。なんたって……なんたって……なんたってこれは、タイムマシンなんだからな！」

「何言ってるんだよ、おい、落ち着けよ。どうしちやっただよ二人とも」

ハム太がおろおろと止めるのもきかずに、ノリオはぱたんとフタを閉めてしまった。くぐもった声が中から叫ぶ。

「こげよ、ワタル！」

その時にはもう、僕は自転車に飛び乗っていた、スタンドを立てたままの自転車のペダルを踏み込む。力いっぱいこぐ。ヴウウウイイイインン、という音とともに、薄暗い倉庫の中に色とりどりの電球がぴかぴか灯っていく。自転車の振動が伝わって、タイムマシン全体が小刻みに揺れ始める。

〈発進！ 発進！ 行け！ 行け！ 行けッ！〉

一心に唱えてこぎ続けながら、僕はノリオの閉めたフタを凝視した。ハム太も、口をあけて固まったまま見つめている。ノリオはもう未来の世界に着いたのだろうか。僕らはどうすればそれを知ることができるのだろう。その瞬間――

ぎよつとなった。

いったいノリオは、どうやってあっちの世界から戻ってくるつもりなのだろうか？ タイムマシンはここに一台あるだけで、あっちの世界にはないというのに……どうしてそのことに、今まで誰も気がつかなかったのだろう！

僕は、ハム太を見た。ハム太がおびえた目で僕を見ている。

僕が自転車から飛び降りると、ハム太がフタに飛びつくのは同時だった。

「ノリオッ！」

僕らは力まかせに引き開けた。中には――

中には……あたり前の話だけれど、出発した時と同じかつこのノリオがしゃがみこんでいた。薄汚れたバスタブの底から、ノリオが唇を変な形にゆがめて僕らを見あげる。

「……………」

④僕は、気まぐしく目をそらした。ほこりと涙の筋でまだらになったお互いの顔を、今は見たくなかった。だんだんと、車輪の<sup>f</sup>カイトンがゆるやかにになっていく。

チキチキチキ、カラカラカラ……。

みるみるうちにライトの輝きが薄れていく。

ありったけのねじや電球にまみれ、無意味なハンドルや時計やタイヤをごちゃごちゃと取りつけられたポリのバスタブは、こうしてあらためて見ると、ひどくグロテスクな姿をしていた。〈派手な車〉どころか、何だか、たちの悪いジョークみたいだった。

チキ……チキ、チキ……。

弱々しいオレンジ色の光が天井近くの高窓から斜めにさしこんで、<sup>e</sup>僕らの無残な失敗作を照らし出す。

僕は、高窓を見上げた。

ひび割れたガラスの向こうに、空が広がっていた。

見たこともないほどきれいな夕焼けだった。

問一 線部a～fのカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直し、それぞれ解答欄に答えなさい。

問二 線部①「首筋の毛が、ぜんぶ逆立つ」とはどのような様子を表していますか、最も適当なものを次の中から選び、解答欄に記号で答えなさい。  
ア 恐怖のために、ぞっとする様子。  
イ 驚きのために、はっとする様子。  
ウ 気配を感じて、びくっとする様子。  
エ 動揺して、ぎよっとする様子。

問三 本文中の X に入る最も適当な語を本文中から探し、抜き出して解答欄に答えなさい。

問四 線部②「そんなことない！」とありますが、これについて説明した次の文章の i・ii にふさわしい内容を、本文中よりそれぞれの字数で探し、抜き出して解答欄に答えなさい。

僕たちが作ったタイムマシンは i (10字) に合わせて戻って帰ることができる物だから、  
ii (16字) に戻ることが出来れば、ヤンチャを救うことが出来る。

問五 線部③「凝視」の意味として適当なものを次の中から選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア ぼんやりと見ること。  
イ うたがって見る事。  
ウ 見とれてしまうこと。  
エ じっと見続けること。

問六 線部④「僕らは、気まぐれ目をそらした。ほこりと涙の筋でまだらになったお互いの顔を、今は見たくなかった」とありますが、この時の「僕」の心情の説明として適切でないものを次の中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア 死んでしまったヤンチャにはもう二度と会うことができないという現実を、受け入れたくないと思っている。  
イ タイムマシンから出てきたノリオの汚れた顔を見て、自分たちの取った行動に、ばかばかしさを感じている。  
ウ タイムマシンでヤンチャの生きていた過去に戻るといふノリオのばかげた計画に、激しい憤りを感じている。  
エ ノリオが本当に時空を超えてしまったらどうかと一瞬思ってしまったことを、恥ずかしく思っている。

問七 線部⑤「無残な失敗作」を具体的に言い表している部分を本文中より五十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を解答欄に答えなさい。  
(句読点も字数に含まれます。)

問八 登場人物についての説明として最も適当なものを次の中から選び、解答欄に記号で答えなさい。  
ア 「なんで僕らに一言のあいさつもなく消えたりできるんだ」と本文中にあるように、  
「ヤンチャ」は薄情で友人に対しても冷たい一面を持っている。  
イ 「これからどうすればいいのか、自分では何も考えられなかった」と本文中にあるように  
「僕」は優柔不断な性格で、自分の意見を主張することができない。  
ウ 「『そんなことない!』ノリオは怒鳴った」と本文中にあるように、  
「ノリオ」は荒々しい気性の持ち主で、すぐカッとなって大きな声を出している。  
エ 「『何言ってるんだよ、さっぱりわかんないよ』ハム太が泣き声を出す。」と本文中にあるように、  
三人の中で弱々しい性格の「ハム太」はいつも人の後についていく。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある池の中に、蛇と亀、蛙と知音\*1にて住みけり。天下(世の中が)ひでりして、池の水も失せ、食物(じきもつ)も無くして、飢多むとして、つれづれなりける時、蛇、亀をもて使者として、蛙の許へ、(2)「時のほどおはしませ。見参せむ」といふに、蛙、返事に申しけるは、「飢渴\*2にせめらるれば、仁義(じんぎ)を忘れて食をのみ思ふ。情(なさけ)けも好みも世(普通に暮らしている時での話ではあるが)の常の時こそあれ(3)かかる比(ころ)なれば、えまらじ」とぞ返事しける。(4)

( 出典 『沙石集』 )

\*1 「知音」——親友。

2 「飢渴」——食べ物や飲み物がないこと。

3 「好み」——親しく付き合うこと。

問一 本文中に出てくる次の語を現代かなづかいに直し、解答欄にひらがなで答えなさい。

a 「𪗇」

b 「ゐ」

問二 —— 線部①「つれづれなり」の意味を、解答欄に答えなさい。

問三 —— 線部②「時のほどおはしませ。見参せむ」について、以下の問いに答えなさい。

a この部分の現代語訳として最も適当なものを次の中から選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア 時間になったらお帰りください。お見送りますよ。

イ ちよつとの間おいください。お目にかかりたいです。

ウ その時はおはしを持ってきてください。一緒に食べましょう。

エ この季節にしか見られないものです。見物しに行きませんか。

b この部分は、何が何に対して呼びかけている内容ですか。それを説明した次の文の [A]・[B] に入る語として最も適当なものを次の語群よりそれぞれ選び、解答欄に記号で答えなさい。

「[A]が[B]に対して呼びかけた内容」

【ア 亀 イ 蛙 ウ 蛇 エ 作者】

問四 —— 線部③「かかる比」とは「このような頃」という意味ですが、それにあてはまる内容を本文中から四十字程度で探し、初めの五字を解答欄に抜き出して答えなさい。

問五 —— 線部④「えまらじ」とは「おうかがいできません」という意味ですが、蛙はなぜそのような返事をしたのですか。その理由を解答欄に答えなさい。

問六 本文の出典である『沙石集』は鎌倉時代の作品ですが、これと同時代の文学作品を次の中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

【ア 奥の細道 イ 源氏物語 ウ 方丈記 エ 枕草子】

平成31年度 国語 解答用紙

|      |
|------|
| 受験番号 |
| 氏名   |

【一】

|    |           |           |         |
|----|-----------|-----------|---------|
| 問一 | ① シユウラク 〃 | ② キヨウカイ 〃 | ③ 貫く 〃  |
|    | ④ 雇われる 〃  | ⑤ 舗装 〃    | ⑥ セマイ 〃 |
|    | われる       |           | い       |

問二

問三

〔a〕

〔b〕

問四

問五

問六

問七

【二】

|    |          |        |          |
|----|----------|--------|----------|
| 問一 | ① サツエイ 〃 | ② 整頓 〃 | ③ オソった 〃 |
|    | ④ 発作 〃   | ⑤ 振動 〃 | ⑥ カイテン 〃 |
|    |          |        | った       |

問二

問三

問四

i

問五

ii

問六

問七

}

問八

【三】

問一

a

b

問二

問三

a

b

A

B

問四

問五

問六